

特集★大学図書館と公共図書館の連携

館種を超えた交流による図書館スタッフのスキルアップを目指して ——大学図書館と公共図書館との連携協定に基づく職員交流研修、合同講座の取り組み——

宮本晴江

1. はじめに

人々の健康に関する意識の高まりや、趣味を極めた専門性の追求等、日々のカウンターで受けるレファレンスでは、しばしば「人生100年時代」が近付いていることを予感させる。図書館スタッフも過去の経験や知識だけでは追いつかないこともあり、幅広い情報の共有や人的ネットワークに頼ることも必要になってきている。

徳島大学附属図書館では2種の連携協定を結び、さまざまな事業を通して、スタッフのスキルアップを図ってきた。本稿ではこれらの取り組みについて報告する。

2. 協定締結のきっかけ

2013年3月に「徳島大学附属図書館と徳島市立図書館との連携協力に関する協定」（以下「市協定」という。）を締結した。これは2012年6月に、徳島大学から県内市町村に照会した「徳島大学との連携及び大学への要望事項調査」に対し、徳島市教育委員会から「図書館による課題解決支援事業」の要望があったことがきっかけであり、両館における協議の結果、レファレンス協力、展示や行事等の開催、移動図書館車の乗り入れ、等において連携・協力することにより、利用者の利便性や図書館サービス向上を目指したものである。

続いて2017年3月には「国立大学法人徳島大学、国立大学法人鳴門教育大学、徳島県及び徳島県教育委員会による図書館活動の連携協力に関する協定」（以下「県等協定」という。）を締結した。この当時、全国の国立大学は法人化第3期中期目標期

間が2016年度から始まるにあたり、各大学の果たす役割について、「卓越した教育研究」、「特色のある研究」、「地域貢献」の3機能の中から選択することになり、徳島大学は「地域貢献」を強み・特色として取り組むことを大学の方針として決定した。また、徳島県立図書館が2017年6月に開館100周年を迎えること、鳴門教育大学附属図書館と徳島県立図書館との間ではすでに資料の相互利用を中心とした覚書を結んでいたこと、等のきっかけにより、連携に向けた話し合いを進めた。その結果、①徳島大学附属図書館には医療系を含めた幅広い専門資料、鳴門教育大学附属図書館には教育関係資料、徳島県立図書館には徳島県地方史料等の網羅、といった具合にそれぞれ特色のある蔵書を構成していることや、また、②人的な面においても、大学にはそれぞれの分野の専門教員を擁し、大学図書館はそのパイプ役となることができること、徳島県立図書館では幅広い職種やさまざまな年齢層の利用者を抱えていること、その他、③学校教育と大学教育との橋渡しが可能であること、以上のようなそれぞれの強みを活かして連携・協力することにより、さらに機能を強化することが可能となることから、協定書は図書館間ではなく大学、県および県教育委員会における連携協定とした。この協定では、徳島県における学術、文化および教育の振興の他、図書館活動を行う人材の育成についても力を注いでいる。

3. 連携事業

市協定または県等協定により実施してきた連携

事業の中から、職員交流研修または合同講座に関連するものをいくつか紹介する。

(1) 職員相互訪問研修（県等協定）

県等協定を締結後、初回の職員相互訪問研修は、2017年7月に「医療関係レファレンスへの対応について」をテーマに、当館蔵本分館において開催した。これは、近年、公共図書館の窓口でも健康に関する質問があることから、医療系データベース検索の方法を学びたいという提案を基に企画したものである。各参加者が「医中誌 Web」を使って、医療関係レファレンスを例題にした文献検索実習および各検索式の組み立て方等について話し合った。その他、ウェブ上の医療情報、患者図書室紹介にも少し触れた。

この職員相互訪問研修で見てきたことは、①一般の方の健康情報に対するニーズは、近年、館種を問わず増えていること、②データベース導入状況や情報提供方法等といった各館の「できること、できないこと」が相互理解でき、レファレンスにおいて他館を紹介する際の判断がスムーズになること、等である。これは正に、館種を超えた幅広い情報共有や人的ネットワークを通して司書のスキルアップが図られた事例であると感じている。また、今後毎年テーマや会場を変えながら研修を行うことにより、人事異動で担当者が代わっても、この研修の目的である人材育成という点で継続的に成果が期待できるものであると思う。



▲職員相互訪問研修

(2) 合同職員研修会（市協定）

市協定による職員研修は、2016年6月に「ス

タッフ交換研修」としてスタートし、1日ずつ計2日間かけて相互に図書館を訪問し、情報交換等を行った。2017年からは「合同職員研修会」と名称を改め、2017年および2018年の2年間、「図書館の広報、サイン計画」をテーマに徳島市立図書館主催（当館共催）により開催し、1年目は講義およびグループワーク、2年目は1年目のフォローアップとして、研修を通して得たことを業務に活かすことができたかどうかの振り返りを含めた研修となった。一般的に、研修は講義を受けて終了となりがちであるが、ここ（研修）からスタートであると意識して日常業務に取り組み、1年後にその成果を報告する、ということは非常に大きな意味を持つと感じた。また、この研修の参加者は2017、2018年平均で徳島市立図書館39名、当館9名、と多くのスタッフが参加でき、職員交流の意味でも大きな役割を果たしている。



▲合同職員研修会

(3) 図書館で健康いきいき講座（市協定）

2016年11月から市協定の連携事業として、市民向けの健康講座を開始した。講師については、当館が徳島大学教員のうち、テーマに合う専門の教員に趣旨説明・講師依頼の交渉を行い、徳島市立図書館を会場に開催している。この健康講座は、定員20名という少人数による対話型の講座であり、講話の合間にも質問のやり取りが自然に行われて、参加者の満足度が高いものである。初回のテーマは「健康診断の検査数値の見方を知ろう!」、第2回は2017年6月に「知っておきたい認知症のことー予防と認知症の人を支えるためにー」、第3回は

2017年12月に「知ることから始まる糖尿病対策－その真髓をお伝えします－」をテーマに開催した。大学図書館スタッフも自館の中だけで仕事をしていると周りが見えなくなる場合があるが、市民の中へ足を運んで、「今」のニーズを肌で感じることは、大学図書館の広報活動の一翼を担うとともに、貴重な機会であると感じている。なお、この健康講座では、当館と徳島市立図書館との両館で同時それぞれの所蔵資料を用いて関連展示を行っているが、これらの監修も講師に併せて依頼している。



▲図書館で健康いきいき講座

(4) 学術講演会の合同開催（県等協定および市協定）

当館では1991年より学内外に向けて学術講演会を年1回開催してきたが、2016年11月開催の講演会「板東俘虜収容所『第九』百年の国際交流－ドイツ俘虜たちとベートーヴェン－」から、この学術講演会を県等協定および市協定による連携事業として位置付けることとした。当館でテーマおよび講師を決定し、協定館より共催をいただく形を取っており、各館を通じて、地域の方々への広報も協力していただいている。また、各館ではそれぞれ同テーマの資料展示を行い、学術講演会当日には参加者に各館の展示資料リストを配って、さまざまな資料の案内へ導いている。

2017年10月には「100年前の四国遍路」をテーマに合同開催し、講演会参加者は104名、当館資料展示室への入場者は1,290名となり、例年より大きく伸びたことは特筆すべきことである。



▲学術講演会「100年前の四国遍路」

4. おわりに

連携事業を実施するにあたり、県等協定では年1回、市協定では年2回、定例会を開催し、各図書館長にも出席していただき、事業の実施状況の確認と次年度の計画を立てている。このように定例会を持つことによって、組織として取り組むことが自然にでき、担当者個人任せになることが避けられて、人事異動があってもスムーズに計画が実施できている理由だと感じる。

また、従来の図書館は資料保存が主な役割であったが、ICTの進展等の社会の変動により、利用者からは情報の公開と共に、スピーディかつ効果的な情報提供が求められており、図書館が地域におけるハブ的な役割を担うことは、どの館種であっても同じであると思う。地域住民の課題解決のためにも館種を超えて、大学図書館と公共図書館が連携し、スタッフの資質向上によって、横串のしっかり通った地域貢献に今後も取り組んでいく予定である。

最後に、連携協力いただいている鳴門教育大学附属図書館、徳島県立図書館、徳島市立図書館のご支援に心から感謝申し上げます。

参考

- ・徳島大学附属図書館メールマガジンすだち
<https://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back.html>
 (みやもと はるえ：徳島大学附属図書館)
- [NDC10：011.3 BSH：1.図書館協力
 2.徳島大学附属図書館 3.図書館(公共)－徳島県]